

わたしが今回ニュージーランドに行き、リンゴ園を見て感じたことは、大規模栽培でも園地の管理がとても素晴らしかったということです。下草の管理、リンゴ樹の根回りには除草剤など、数百 ha の園地を栽培しているとは思えないほど、きれいな園地でした。

ちょうど夏から秋へと変わる時期で、リンゴも早生の品種は赤く色付き、食べることもできました。味はくどくなく、さっぱりするような味で、わたしが想像していた味とは違いおいしかったと思います。

その園地は試験場でいろいろなリンゴの品種があり、品種改良などを行っているようで、青森県の主力品種である、ふじの着色系も品種改良しているそうです。

ニュージーランドでトマト園、パプリカ園を見てきました。どちらもハウス栽培で、水、肥料、温度管理などがコンピューター管理でとても驚きました。コンピューター管理の栽培なら日本でもできそうな気がします。青森県は雪の問題があるので難しい気がします。しかし、あの栽培方法なら人件費削減などのメリットもありそうな気がしました。

各園地ともに低農薬、無農薬栽培に取り組んでいて、やはりどこでも安全な野菜作りに取り組んでいると感じました。

ニュージーランドは現在、3 か月間も雨が降っておらず乾燥しており、スプリンクラーなどで水を散布している園地以外は、辺り一面枯れ草状態でした。主力の酪農家の人たちも餌の牧草が枯れて大変らしいです。

今回の研修で思ったことは、ニュージーランド産のリンゴが日本にきても、味・色・玉のサイズなど、すべて青森県産にはかなわないということが分かりました。

最後に今回の海外研修に行かせていただき、鶴田町に感謝いたします。ありがとうございました。